

# 地質標本館所蔵標本の利用について

成果普及部門 地質標本館

## 地質標本館の標本

地質標本館は産総研における「地質の調査」に関する研究の成果を一般に公開するとともに、我が国唯一の地球科学の総合博物館として広く知られている。この施設の名称が「博物館」ではなく「標本館」である理由は、当館が単に展示施設としての役割だけでなく、我が国最大の地質標本を所蔵していることにある。地質標本館では母体であった旧地質調査所が1882年に創立されて以来、国内のみならず海外において行われた地質調査で収集し、研究された岩石、鉱物、化石等の地質標本類約40万点を所蔵している。研究の終了した標本は地質標本館に提出され岩石、鉱物、化石に三大別し、コンピュータによる管理・検索システムの下に登録作業がすすめられ、一連の登録番号をつけ収蔵庫の所定の位置に収納されるとともに、一部は地質標本館において展示・公開している。現在、岩石約76,000点、鉱物約36,000点、化石約16,000点のデータベース化が終了し、画像情報とともにWebを通して公開の準備を進めている。

地質標本館は、これらの標本を研究の終了したものとして保管するのではなく、研究の検証や、更には新しい見地からの検討用として利用されるべく管理し、我が国では国立科学博物館とならぶ地質標本センターとして内外の研究者に標本を提供し、一定の評価を得られるようになった。今日では、地球科学の分野のみならず化学、物理学、生物学、医学、農学等の分野の研究者から無機材料物質としての研究素材として利用したり、標準物質としてX線、中性子、電子顕微鏡、EPMA、SIMS等の機器分析において分析精度を確認する指標や、新材料開発の対象物質としても広く利用されている。地質標本館の地質標本は、70～80%が大学や企業における研究分野で利用され、次いで多い例は、自治体等に所属する博物館における特別展等への貸出しである。また、小学校から高校の理科教材への写真や標本の貸出しも行っており、地学関連の教科書、参考書も含めて地質標本館所蔵の標本が地学の普及に大いに役立っている。近年は報道や出版分野からの貸出しの要請も増えている。

## 標本利用の手続き

地質標本館の標本の利用に当たっては、地質標本館地質標本情報担当または地球科学情報研究部門地質標本研究グループ長が受付け、検討の上貸出される。標本は研究試料であるため、その利用上様々な制限が加えられることがあり、利用に当たっては前もって「地質標本利用票」を提出しなければならない。

●利用の詳細についての問い合わせは

電話 (0298) 61-3777,3883

Fax (0298) 61-3746

E-mail hyohon@aist.go.jp



写真1 地質標本館標本収蔵庫内の移動式標本棚。岩石標本、化石標本は登録番号順に、鉱物標本は化学組成による分類に従って収納される。



写真2 標本棚の引出しに収納された鉱物標本は鉱物種別にまとめられている。